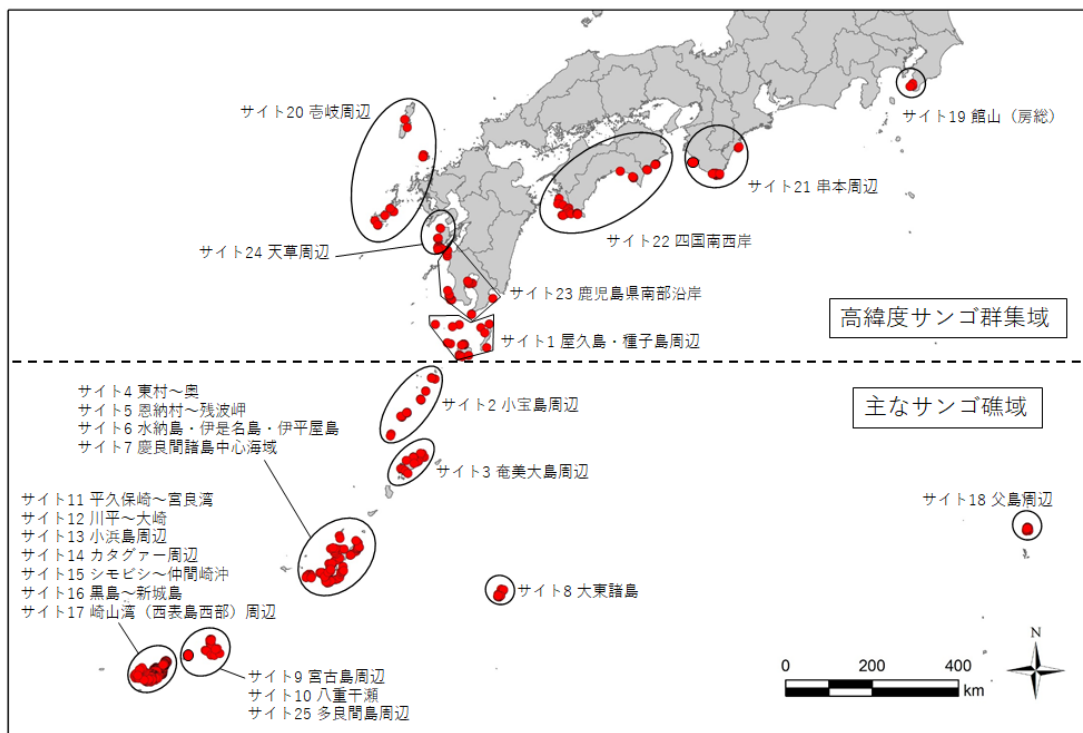


モニタリングサイト 1000 サンゴ礁調査

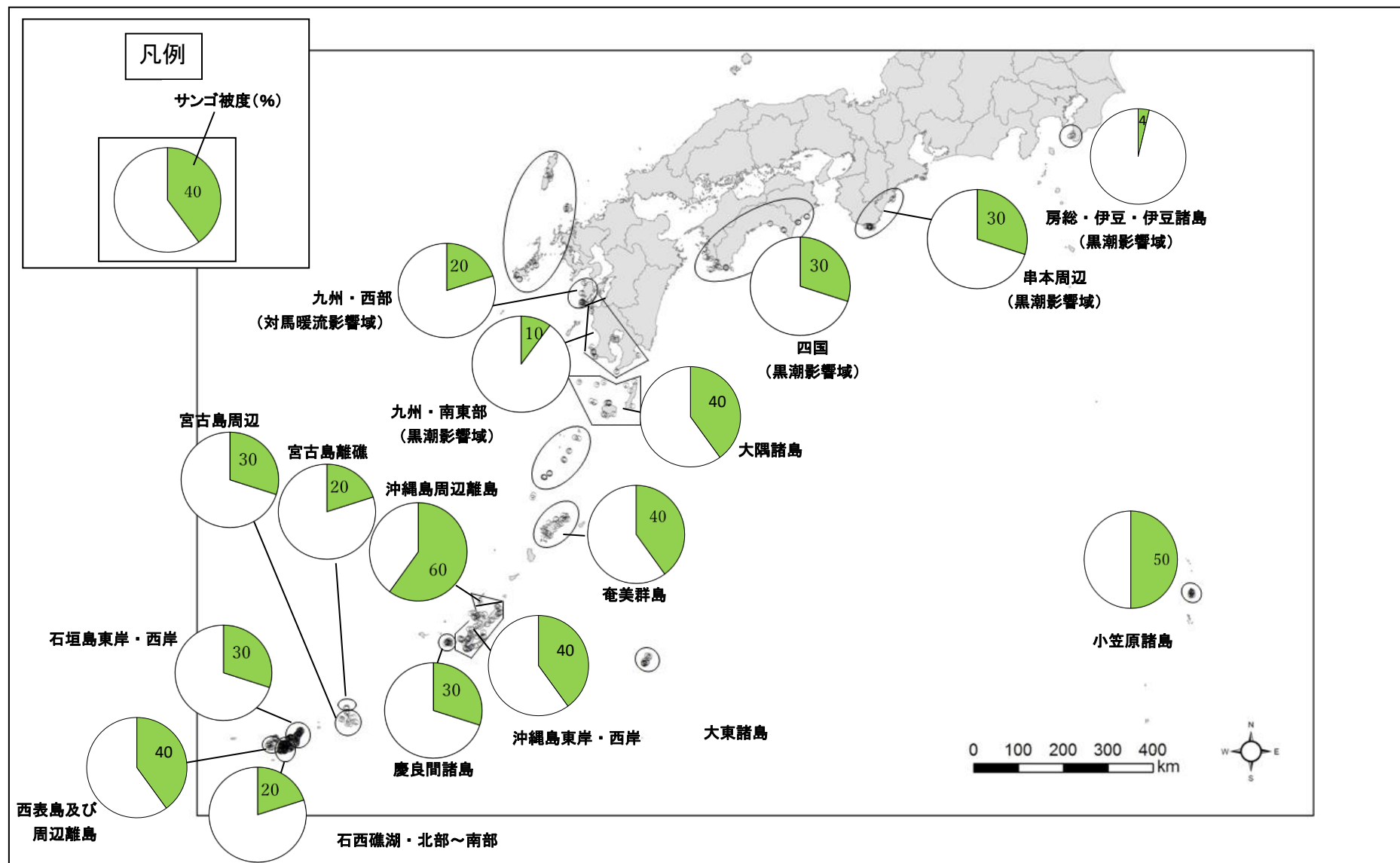
2020 年度とりまとめ結果

モニタリングサイト 1000 サンゴ礁調査では、サンゴ礁の発達する「主なサンゴ礁域」とサンゴ群集が生育する「高緯度サンゴ群集域」に合計 25 の調査サイトを設置し、毎年調査を行っています（小宝島周辺、大東諸島及び多良間島周辺の 3 つのサイトは、5 年に 1 度調査を実施しています）。

ここでは、2020 年度の調査結果の概要をお知らせします。



モニタリングサイト 1000 サンゴ礁調査 サイト位置図



モニタリングサイト 1000 (サンゴ礁調査) における 2020 年度の各地の平均サンゴ被度 (%)

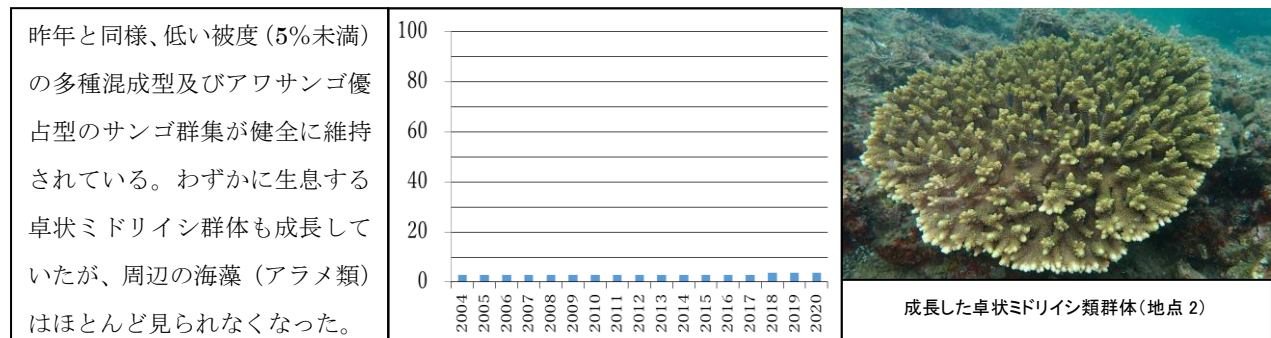
各サイト及び海域の概況

高緯度サンゴ群集域

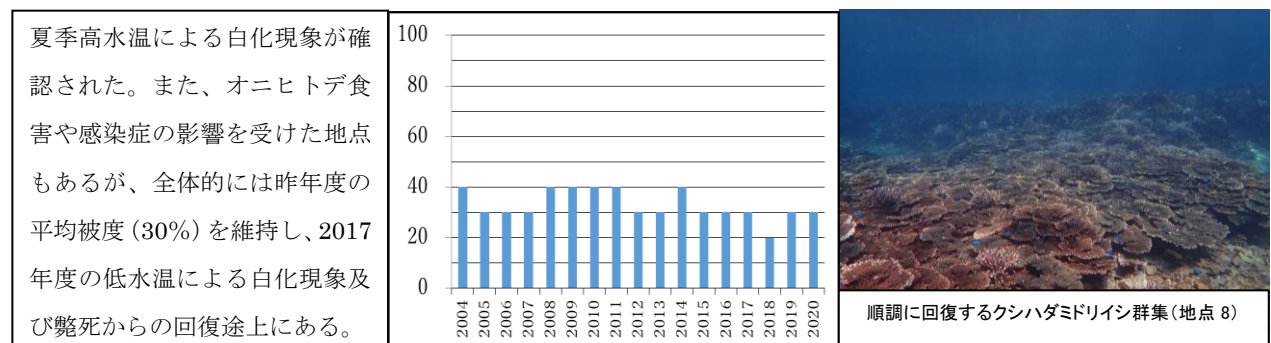
モニタリングサイト 1000 サンゴ礁調査では、サンゴ礁を形成しない温帯域のサンゴ群集分布域のことを「高緯度サンゴ群集域」と呼び、屋久島とトカラ列島の間を境界にしてそれより北側の館山（サイト 19）から屋久島・種子島周辺（サイト 1）までの 7 サイトとなります。本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの島嶼を含む壱岐周辺（サイト 20）での調査を中止したことから、高緯度サンゴ群集域の 6 サイトで調査を実施しました。

なお、グラフは各サイト又は海域の平均サンゴ被度（％）を 10％刻みで表示したものです。

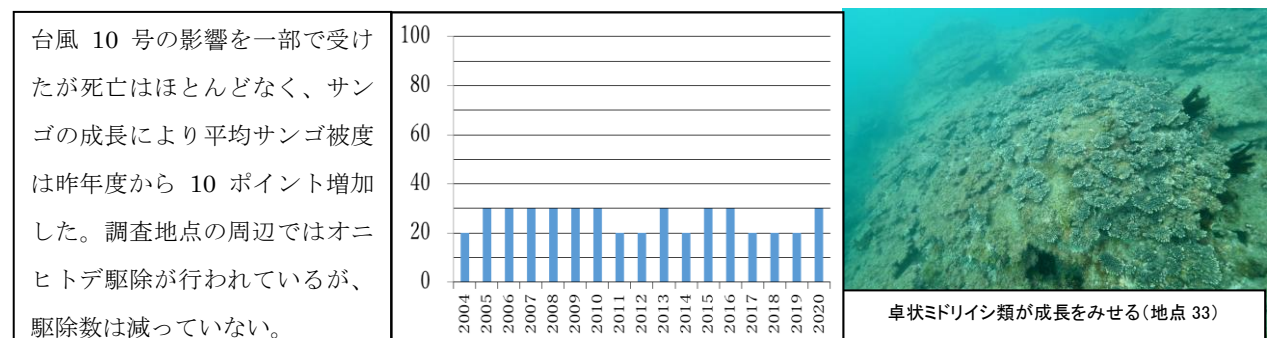
館山(サイト 19) 調査代表者:お茶の水女子大学・清本正人



串本周辺(サイト 21) 調査代表者:串本海中公園センター・平林勲

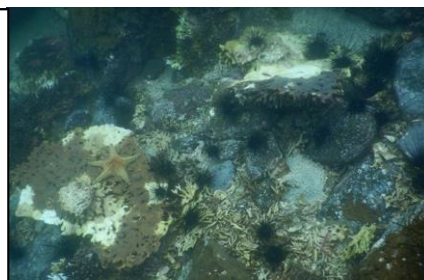
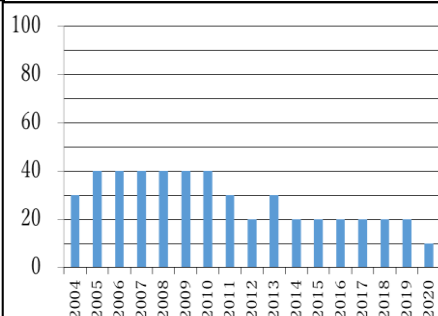


四国南西岸(サイト 22) 調査代表者:黒潮生物研究所・目崎拓真



鹿児島県南部沿岸(サイト 23) 調査代表者:ダイビングサービス海案内・出羽慎一・出羽尚子

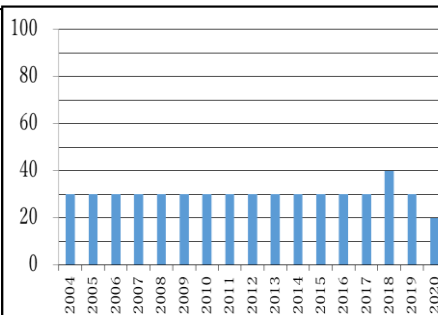
台風 10 号の影響を受け卓状ミドリイシ群体の多くが損壊。平均サンゴ被度が昨年度より 10 ポイント減少して 10% になった。オニヒトデ被害に加えてサンゴ食巻貝の被害も顕著になり、これまでで最も被度が低い。



台風により転倒した卓状ミドリイシ群体(地点 3)

天草周辺(サイト 24) 調査代表者:九州大学天草臨海実験所・新垣誠司

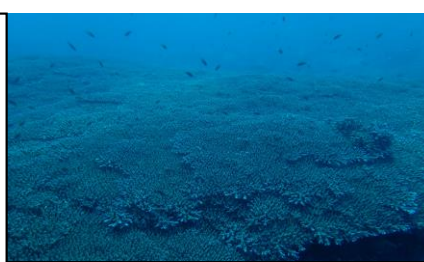
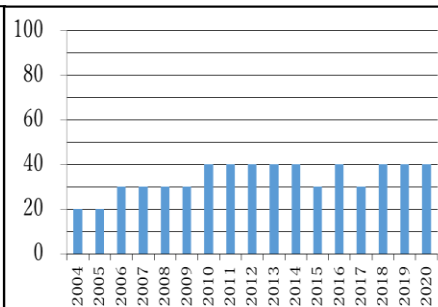
平均サンゴ被度が 10 ポイント減少したが、調査実施者の交代による誤差であり、サンゴ群集は昨年度と同様の状態を維持していると思われる。ブダイ類が増加しており食痕を確認した。



アオブダイのものと思われる食痕(地点 10)

屋久島・種子島周辺(サイト 1) 調査代表者:屋久島海洋生物研究会・松本毅

台風 9 号及び 10 号の影響を受け、サンゴ被度が減少した地点もあったが、全体的には昨年度の健全な状態を維持していた。平均サンゴ被度は 40% であり、高緯度サンゴ群集域では今年度最も高い値であった。



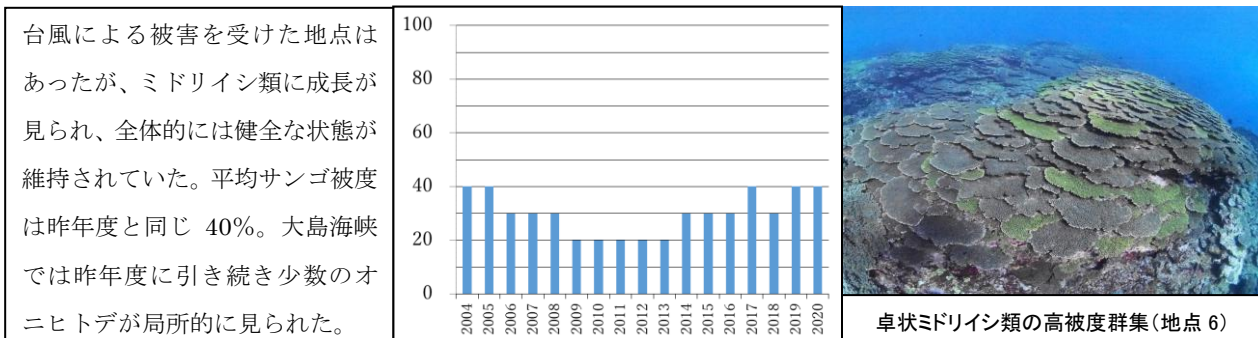
卓状ミドリイシ類の高被度(70%)群集(地点 3)

主なサンゴ礁域

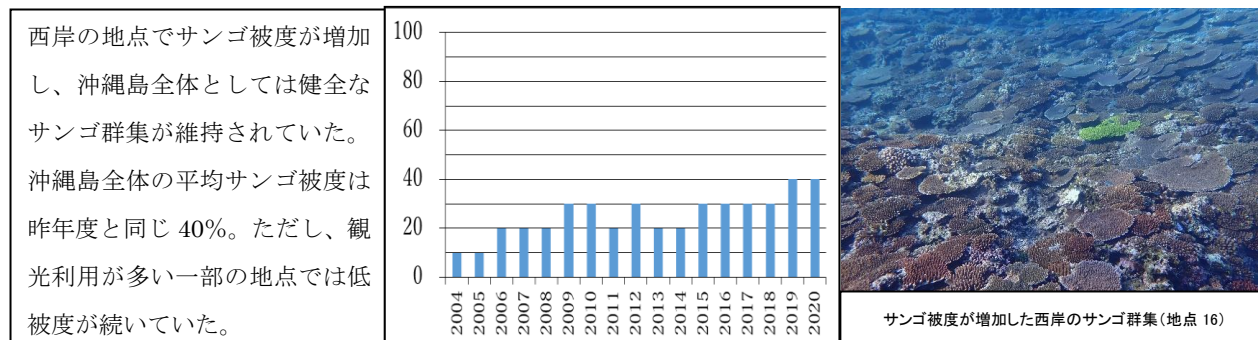
主なサンゴ礁域とは、サンゴ礁を形成する亜熱帯域を指し、モニタリングサイト 1000 サンゴ礁調査では、小宝島周辺（サイト 2）以南の 18 サイトとなります。グラフは各サイト又は海域の平均サンゴ被度（％）を 10％刻みで示したものです。本年度は、5 年に 1 度モニタリングを行う遠隔地サイトのうち、小宝島周辺（サイト 2）の調査を実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、調査を中止したことから、主なサンゴ礁域で毎年調査を実施する 15 サイトで調査を実施しました。

なお、グラフは各サイト又は海域の平均サンゴ被度（％）を 10％刻みで表示したものです。

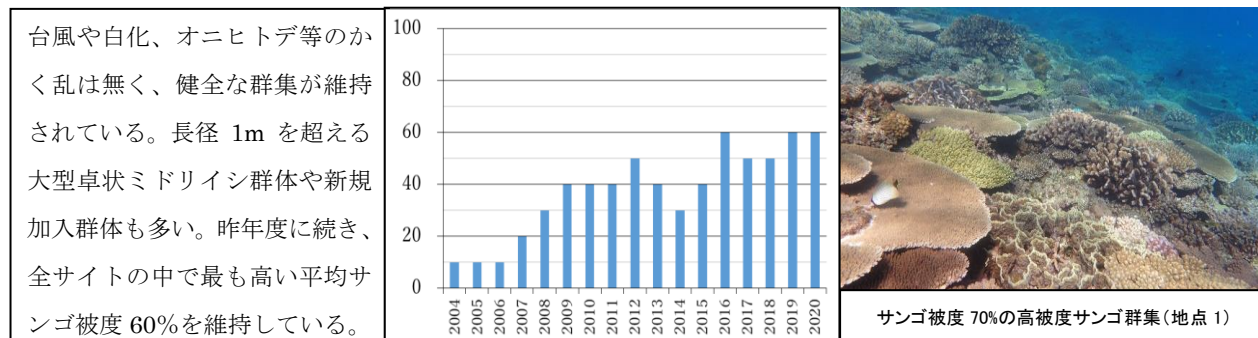
奄美大島(サイト 3) 調査代表者:ティダ企画有限会社・興克樹



沖縄島東岸・西岸(サイト 4～5)海域 調査代表者:沖縄県環境科学センター・長田智史

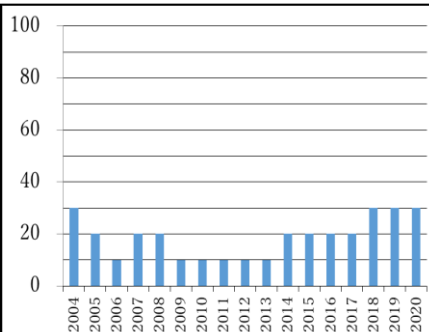


沖縄島周辺離島(サイト 6) 調査代表者:沖縄県環境科学センター・長田智史



慶良間諸島中心海域(サイト7) 調査代表者:熱帯海洋生態研究振興財団・岩尾研二

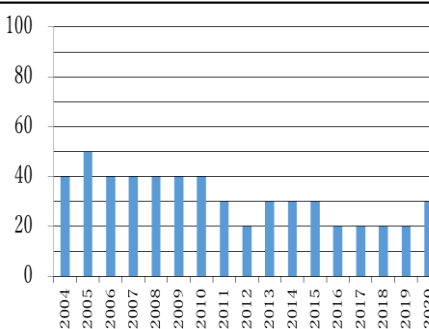
平均サンゴ被度は昨年度と同じ30%。2015年以降オニヒトデは確認されておらず、その他の大きなかく乱もなく健全な状態が維持されている。先端部が白くなった卓状ミドリイシ群体が一部で確認されたが原因は不明。



先端部のみ死亡した卓状ミドリイシ群体(地点6)

宮古島周辺(サイト9) 調査代表者:宮古島市水産課・梶原健次

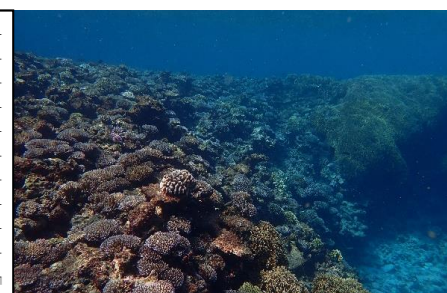
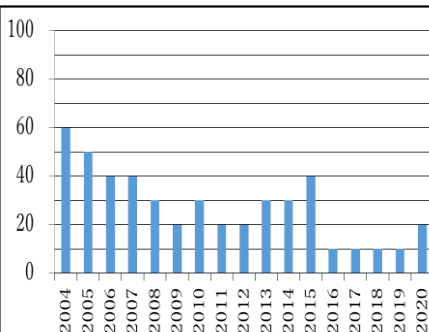
一部で白化現象が確認されたが被害はなく、ミドリイシ類の成長により平均サンゴ被度は昨年度から10ポイント増加して30%となった。2016年の高水温による白化被害から回復の途上にある。小型群体も増加傾向。



新規加入したミドリイシ群体の成長(地点10)

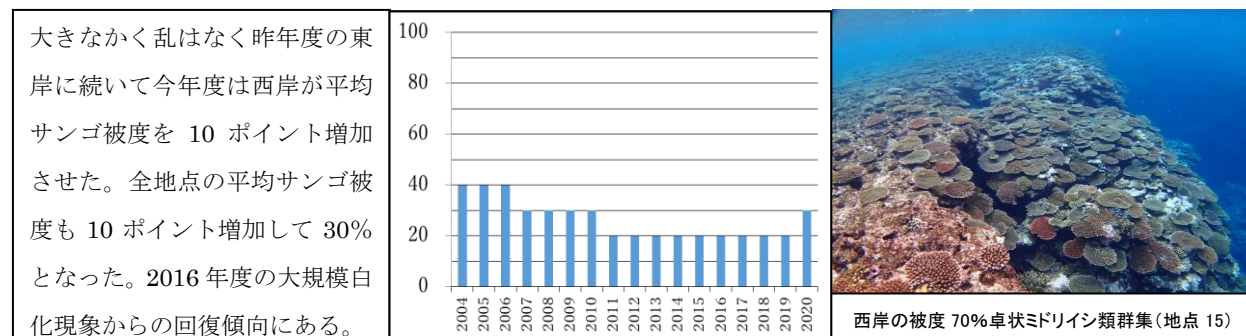
宮古島離礁:八重干瀬(サイト10) 調査代表者:宮古島市水産課・梶原健次

一部で台風による損壊が見られたが、全体的には卓状ミドリイシ類の成長により平均サンゴ被度が昨年度から10ポイント増加して20%となった。被度は低いですが2016年の高水温による白化被害からの回復が伺える。

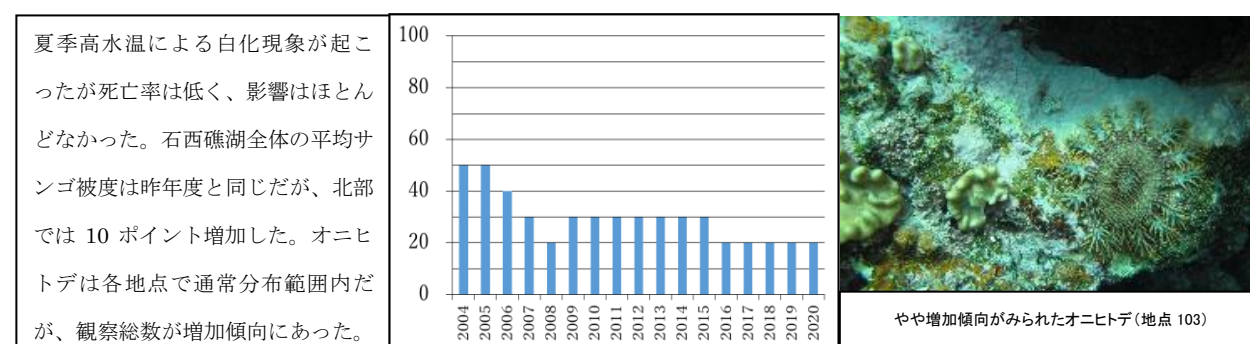


卓状ミドリイシ類が高密度に生息している(地点4)

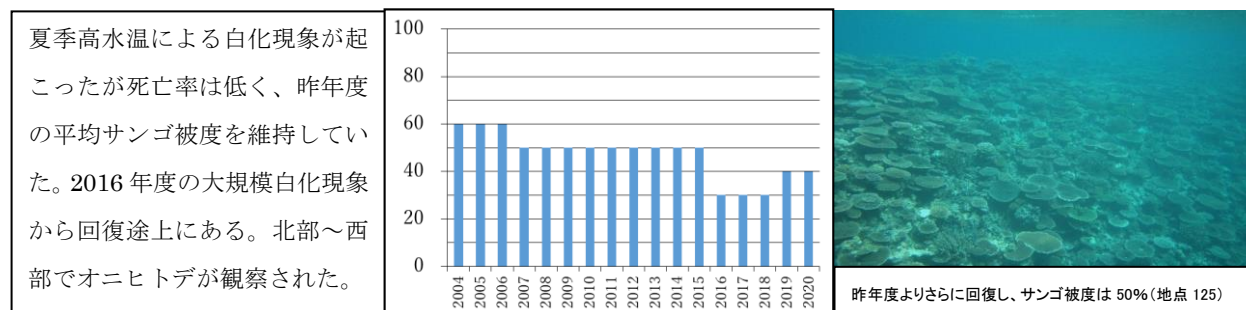
石垣島東岸・西岸(サイト 11、12)海域 調査代表者: 有限会社海游・吉田稔



石西礁湖北部～南部(サイト 13～16)海域 調査代表者: 自然環境研究センター・木村匡



西表島及び周辺離島海域(サイト 17) 調査代表者: 自然環境研究センター・木村匡



父島周辺(サイト 18) 調査代表者: 小笠原自然文化研究所・佐々木哲朗

